

「誰ひとり取り残さない」 SDGsとは?

7. 国際的な流れ

SDGsとは、国際連合が定めた持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)の略です。SDGsはすべての国を対象とし、2030年に地球を持続可能な場所とするための「17の目標と169のターゲット」を掲げています。

SDGsは、持続可能な開発を構成する要素を、「人間(people)」「地球(planet)」「繁栄(prosperity)」「平和(peace)」「パートナーシップ(partnership)」の5つのPの構成要素と、「誰ひとり取り残さない」を核とし、一人ひとりを大切にしながら世界を変革していくことを掲げています。

SDGsの掲げる「誰ひとり取り残さない」は、まさに平等と非差別の原則です。国籍、民族、性、宗教、障がい、肌の色、出身、年齢などの属性にかかわらず、一人ひとりを尊重する、差別をしないことを根底に据え、多様な主体*がこの目標に向かって活動していくことが国際的に求められています。

SDGs と障がいへの対応

SDGsの17の目標の中で、直接「障がい」について言及しているのは、以下の5つの目標です。



目標4.質の高い教育をみんなに



目標8.働きがいと経済成長



目標10.不平等の是正



目標11.住み続けられる街づくり



目標17.パートナーシップ



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

国際連合では、「2030年を心に描こう-障害者のために世界を変える17の目標(Envision2030: 17 goals to transform the world for persons with disabilities)」と称したキャンペーンを始め、さまざまな場面で障がい者の参画を促し、協働して取組を推進していくことをめざしています。

*多様な主体…各国、各自治体、各企業・組織、各コミュニティ、各個人